

8月下旬、標高約1100メートルの北軽井沢で見かけたアキアカネです。少し離れた木の先端にとまり、腹部を斜め上に持ち上げた姿を見せていました。写真では全身が橙赤色に輝いていますが、胸部や顔まで真っ赤ではなく、胸部側面の黒い筋が上方に向かって細くなるように見えることから、よく似たナツアカネではなく、アキアカネと考えられます。

「赤とんぼ」の代表ともいえるアキアカネですが、実は真夏の暑い平地ではあまり姿を見かけません。初夏に水田などで羽化した若い個体は、気温の上昇とともに涼しい山地や高原へ移動し、そこで餌をとりながら夏を過ごします。そして秋が近づき気温が下がると成熟し、再び平地へ移動して水田などで産卵します。北軽井沢は標高が高く夏でも比較的涼しいため、まさにアキアカネの「避暑地」といえる場所です。

この個体は腹部がかなり赤く色づいており、夏の高原生活を終えて成熟しつつある雄と思われます。8月下旬という季節を考えれば、間もなく始まる秋の移動を前にした姿なのかもしれません。秋の虫という印象の強いアキアカネですが、その一生をたどると、低地と山地を季節に応じて往復する、意外なほど行動範囲の広いトンボです。

北軽井沢で出会った一匹の赤とんぼは、単に「秋が近い」ことを知らせているだけではありません。この高原でひと夏を過ごし、これから里へ下って次の世代へ命をつなぐ、その大きな季節移動の途中にある姿です。写真に写った小さなアキアカネから、高原の短い夏が終わり、秋へと季節が動き始めていることを感じました。

(2026年8月下旬／北軽井沢)

